

個人識別学Ⅱ

Method of Identification Ⅱ

単位数：5単位

○竹下 治男 教授：法医学
木村かおり 学内講師：法医学

藤原 純子 学内講師：法医学

1. 科目の教育方針

親子鑑別や個人識別の検査に利用される遺伝マーカーの数は、DNA 多型を中心に年々多くなっている。さらに個人識別の対象物も多岐にわたるとともにさまざまな遺伝マーカー検出方法が開発されている。個人識別学Ⅱの講義・演習では、日常検査で使用しやすく、精度が高く、安定な遺伝マーカーの現状等の基本をふまえて、さらに、高度な応用理論について学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 個人識別をめぐる最先端の問題を主として法医裁判科学の立場から理解・応用し、個人識別をめぐる社会的問題について対処できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 個人識別の一般的知識を理解・応用し、個人識別に関わる社会的問題に積極的に関わる態度を示し、社会的に対処することができる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

講義ごとに次の参考文献を示す。

現代の法医学 改訂第3版増補. 金原出版. 1998年
臨床法医学テキスト 第2版. 中外医学社. 2012年

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	物体検査の現状と今後	竹下 治男
2	(演習) 物体検査における実務例	竹下 治男
3	古典的 (生化学的) 血液型の現状と今後	竹下 治男
4	(演習) 古典的 (生化学的) 血液型における実務例	竹下 治男
5	各種遺伝マーカーの現状と今後 1	木村かおり
6	(演習) 各種遺伝マーカー 1 における実務例	木村かおり
7	各種遺伝マーカーの現状と今後 2	木村かおり
8	(演習) 各種遺伝マーカー 2 における実務例	木村かおり
9	DNA 型の現状と今後 1	藤原 純子
1 0	(演習) DNA 型 1 における実務例	藤原 純子
1 1	DNA 型の現状と今後 2	藤原 純子
1 2	(演習) DNA 型 2 における実務例	藤原 純子
1 3	親子鑑定の現状と今後	藤原 純子
1 4	(演習) 親子鑑定における実務例	藤原 純子
1 5	(演習) 総合討論 コースのまとめ	藤原 純子